本研究得到2010年度黑龙江省哲学社会科学研究规划项目（10B022）
黑龙江大学青年科学基金项目（QW200919）
黑龙江大学博士启动基金项目的资助

语言类型学视角下的汉日指示词对比研究

（日文版）

高　芃◎著

上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

本研究得到2010年度黑龙江省哲学社会科学研究规划项目（10B022）
黑龙江大学青年科学基金项目（QW200919）
黑龙江大学博士启动基金项目的资助

语言类型学视角下的汉日指示词对比研究

（日文版）

高　芃◎著

阜阳师范学院图书馆
藏书

上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

内 容 提 要

指示包括直接指示和间接指示。二者的共同点是利用已有信息引导出新信息，以避免不必要的重复。指示普遍存在于各种语言中，是语言经济性原则的体现之一；指示词的使用能够体现出谈话结构、谈话过程中说话人和听话人对信息的了解及认知程度。故近年来不乏看到一些从认知角度对指示词展开的研究。本书则主要从语言类型学的角度，利用对比语言学的基本原理，对汉日指示词进行系统的对比研究。

图书在版编目(CIP)数据

语言类型学视角下的汉日指示词对比研究：日文 / 高芃著.
—上海：上海交通大学出版社，2015
ISBN 978-7-313-13351-9

Ⅰ.①语… Ⅱ.①高… Ⅲ.①日语-词语-对比研究-汉语 Ⅳ.①H363②H136

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 150665 号

语言类型学视角下的汉日指示词对比研究(日文版)
著　　者：高　芃

出版发行：上海交通大学出版社　　地　　址：上海市番禺路 951 号
邮政编码：200030　　电　　话：021-64071208
出 版 人：韩建民
印　　刷：虎彩印艺股份有限公司　　经　　销：全国新华书店
开　　本：710mm×1000mm　1/16　　印　　张：13.5
字　　数：176 千字
版　　次：2015 年 7 月第 1 版　　印　　次：2015 年 7 月第 1 次印刷
书　　号：ISBN 978-7-313-13351-9/H
定　　价：38.00 元

版权所有　侵权必究
告 读 者：如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系
联系电话：0769-85252189

本研究得到2010年度黑龙江省哲学社会科学研究规划项目（10B022）、黑龙江大学青年科学基金项目（QW200919）、黑龙江大学博士启动基金项目的资助。

序　文

名古屋大学教授
丸尾　誠

高芃さんは名古屋大学国際言語文化研究科に1年半研究生として在籍した後に、当研究科博士前期課程（修士課程）に入学した。修士課程を終える際に、それまでの主指導教員であった故平井勝利先生（名古屋大学名誉教授）が定年退職となり、以降、博士後期課程からは、私が高芃さんの主指導教員を引き継ぐこととなった。

どの研究においてもそうであろうが、とりわけ文法研究ではテーマの選定が重要となる。卑近な言語事象を研究対象とする文法研究においては、独創性および新たな見解を打ち出すのは容易ではない。単発の論文であれば努力すればなんとか形にはなるとしても、一貫したテーマで、それを博士論文として求められる分量とレベルを満たすのは並大抵のことではない。そうした事情もあり、私の指導生の研究テーマも必然的に構文論や意味論を中心とした各種文法事項への広がりを有するものが多くなる。そんな中で高芃さんの興味の対象は、中国語の指示代詞“这”と“那”の用法という新機軸を打ち出すのが必ずしも容易ではないテーマの1つであった。

言うまでもなく、単に両者の使い分けを論じるだけでは目新しさに

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

欠け、また話者の認識と関連付けて論じる際には客観性を確保する必要がある。 そうした障壁を克服すべく、博士論文の執筆に日々意欲を持って取り組む高芃さんの真摯な姿勢は、現在でも鮮明な記憶として残っている。

本論文は現代中国語の指示詞“这/那”に関わる各種用法について考察しつつ、理論的枠組みの構築を目指したものである。 考察の過程においては、とりわけ談話構造における“这/那”の機能に着目し、両者の使い分けを通して、発話者の指示対象に対する認識が“这/那”の使用に如何に反映されているのかを解明しようとする視点が貫かれている。

中国語のダイクシス(deixis)研究については、とりわけ文脈や個人の語感に左右されることが多く、先行研究における主張も必ずしも個別の事象を包括的かつ体系的に解釈しうるものではなかった。 本論文は執筆者である高芃さん自身がネイティブであるという強みを生かしつつも、一個人の語感のみに頼ることなく、堅実に複数の中国語母語話者によるインフォーマントチェックを積み重ねるとともに、小説などの豊富な実例を用いて説得力のある論が展開されており、その結論に対する信頼性は非常に高いものとなっている。 さらに博士論文という分量を生かして、量的に制約のある既存の投稿論文では実現が容易ではなかった比較的長い文章をコーパスとして実証的に検証が行われているという点に、その特徴が見て取れる。 空間義から時間義への転用は各言語において広く見られる事象であるが、中国語では指示詞の表す遠近のカテゴリーが現在と非現在という対立の構図に反映されている点に着目し、発話者の主観的な視点の導入という点から、その対立の構図のもたらす修辞的効果にまで言及している点は評価に値する。

一方で、個別の用法の分析に拘泥しすぎたために、本研究の目指した理論構築と有機的に結び付かない箇所が散見される。 また、検証方法に関しても、自分なりの仮説を立てた上で、それに修正を加えつつ実証的に証明していく手法が用いられているものの、結論が先にありきといった印象を受ける記述が見られるなど、その試みが必ずしも成功しているとは言い難い。

こうした欠点は見られるものの、本論文にはとりわけ我々外国人研究者にはうかがい知れない語感の問題に関して示唆に富む有意義な指摘が多く、これは理論的な弱点を補いうるものであると言えよう。今回の研究成果を指示詞に関する日中対照研究に適用することにより、新たな視点からの考察が大いに期待できるものである。 今なお日々たゆまぬ努力を続けている高芃さんがさらなる研究成果を上げていくことを期待してやまない。

2015 年　初夏

前　言

汉日两种语言中指示体系的不对应往往最先引起语言学习者的注意，这也是我选择指示词作为研究对象的缘由之一。本书的研究课题主要是在我博士论文的基础上完成的。所谓指示包括直接指示和间接指示。二者的共同点是利用已有信息引导出新信息，以避免不必要的重复。指示普遍存在于各种语言中，是语言经济性原则的体现之一；指示词的使用能够体现出谈话结构、谈话过程中说话人和听话人对信息的了解及认知程度。故近年来不乏看到一些从认知角度对指示词展开的研究。本书则主要从语言类型学的角度，利用对比语言学的基本原理，对汉日指示词进行系统的对比研究。

在对比研究过程中如果只是将汉日两种语言的指示词独立出来进行比较，将考察停留在两者的语法功能及用法的对比上，其结果呈现出来的往往是诸多条目的罗列。这样的工作并非毫无意义，作为先行研究可见一二。事实上与“知其然”相比“知其所以然”更为重要。这恰恰是我坚持这一研究课题的初衷。本书在考察过程中非常重视对语境的分析，主要着眼于指示词所处的上下文语境，即篇章。同时从篇章分析的角度入手全面细致地考察日汉两种语言指示词的语用功能。

其次，在研究过程中重视指示词人文属性的关照。文化体系是一套价值系统和行为模式，具有外显的和隐形的两种构架，从根本上制约和指导人的思想行为。面对同一事物，不同母语使用者采用不同表达方式对

其进行描述正是语言人文属性的一种表现。汉日两种语言指示词在语篇中所表现出的差异恰恰是语言人文属性的一种外在体现。本研究致力于从认知、文化心态特征等方面揭示两种语言的指示词在篇章中所体现的特质。

本书所选用语料的原文出处，正文中以作品名开头的二三字略示，具体名称、作者以及出版社、版本等均列于书后。未标明原文出处的为自创语例，其可信度均得到汉日母语使用者的确认。书中例句前所示符号表示语例中指示词使用的可信度。其中，“＊”表示该表达形式不成立；“?”表示该表达形式不自然；“??”表示该表达形式不符合该语言使用习惯；“♯”表示句子本身可以成立，但指示词的使用不符合上下文语境；“ø”表示句中未使用指示词。

最后，谨对该书出版提供资助的黑龙江省哲学社会科学规划办公室、黑龙江大学以及上海交通大学出版社的编审致以衷心的感谢。

目　次

序章　本研究の目的及び構成 …… 1
1. 研究の目的 …… 1
2. 本研究の構成 …… 3

第 1 章　先行研究及びその問題点 …… 11
1. はじめに …… 11
2. 指示詞の用法の分類 …… 12
3. 先行研究 …… 16
3.1　直示理論 …… 16
3.2　“这/那”に関する先行研究 …… 19
3.2.1　統語的側面からのアプローチ …… 19
3.2.2　意味論と語用論からのアプローチ …… 21
3.2.3　談話分析からのアプローチ …… 23
4. まとめ …… 26

第 2 章　“这/那”の用法 …… 27
1. はじめに …… 27
2. 名詞性指示表現 …… 31
2.1　指示機能及び代替機能 …… 31
2.2　指示詞による数量詞制約の解除 …… 36

3. 非名詞性指示表現 …… 39
3.1 名詞性指示表現との対立 …… 39
3.2 接続詞になる場合 …… 41
4. 指示詞におけるモダリティ的な用法 …… 48
4.1 副詞としての用法 …… 48
4.2 場所性指示詞のモダリティ的な用法 …… 53
5. まとめ …… 59

第 3 章 指示詞“那”の虚化現象 …… 61
1. はじめに …… 61
2. “那”の定冠詞的な用法 …… 62
3. 聞き手の連想に依拠した機能 …… 65
4. 比喩的用法に見られる“那” …… 69
4.1 “像……那样” …… 69
4.2 比喩的表現に“那”系が用いられる理由 …… 74
5. 言い淀みなどの“那” …… 78
6. まとめ …… 80

第 4 章 文脈指示における指示詞の用法 …… 81
1. はじめに …… 81
2. 広義の文脈指示 …… 81
2.1 非照応指示の用法 …… 81
2.2 先行研究 …… 86
3. 主題との関連性 …… 89
3.1 主題の諸特性 …… 91
3.2 指示対象を主題化する“这” …… 96

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

4. “那”による指示対象の焦点化 …… 106
4.1　情報焦点と対比焦点 …… 106
4.2　指示対象の焦点化 …… 110
5. まとめ …… 114

第 5 章　視点移動に関する“这/那”の役割 …… 116
1. はじめに …… 116
2. 主観性の関与 …… 117
3. 指示詞と視点移動 …… 121
3.1　照応表現と「定/不定」…… 122
3.2　“那”による視点移動 …… 129
3.3　“这/那”による視点移動 …… 135
4. 視点の時間的移動 …… 139
4.1　先行研究 …… 139
4.2　時間的移動 …… 142
4.3　場所詞による視点の切り替え …… 146
5. まとめ …… 149

第 6 章　修飾構造における指示詞 …… 150
1. はじめに …… 150
2. PPとNPの意味関係 …… 152
2.1　“这/那”と“的”の置き換え …… 152
2.2　PPとNPの意味関係 …… 156
2.3　同格関係に“这”が用いられる理由 …… 163
3. PPとNPの位置関係 …… 170
4. まとめ …… 172

終章　本研究のまとめと今後の課題…… 174
1. 本研究のまとめ …… 174
2. 今後の課題 …… 177

付録…… 183
用例出典…… 184
参考文献…… 187
索引…… 199

序章　本研究の目的及び構成

1. 研究の目的

現代中国語の語彙は、実詞と虚詞の二つに大きく分けられる（朱德熙1982：39、房玉清1992：67、刘坚1998：35ほか参照）。代名詞は実詞の類に属しており、通常、その表す意味・機能に基づいて、人称代名詞、指示代名詞、疑問代名詞の三つに分類される。現代日本語にはこのような指示代名詞に当たるコ・ソ・アを語頭に持つ一群の語がある。また、コ・ソ・アによる指示表現が人称代名詞のかわりに用いられる場合もあるため、人称代名詞と指示代名詞との間にははっきりとした線を引きがたいものでもある。本研究は類型論的な角度から中国語の指示代名詞である“这/那”及び“这/那”に関わる指示表現（具体的には“这（那）个、这（那）儿、这（那）会儿、这（那）样、这（那）么”などを指す。以下“这/那”でこの一連の表現を代表させることとする）と日本語のコ・ソ・アに関わる指示表現について考察するものである。

指示詞①の特徴は、指示対象となる人・モノなどと決まった関係を持たず、異なる状況下で指示内容が変わるという点に見られる。例えば、次の表現例においては、指示詞が同定する指示対象はそれぞれ異

① 用語の定義については第1章の1.はじめにのところを参照のこと。

なる。

(1)(話し手が歩きながら新入生にキャンパス内の建物の配置を紹介している場面)
这是教学楼,这是体育馆,这是礼堂。
[ここが教室棟で、ここが体育館で、ここが講堂です。]

(2) 桌子上的书是我新买的,这是现在的畅销书。
[机の上の本は新しく買ってきたもので、それは今のベストセラーだ。]

(3) 她昨天说的那句话,伤了他的自尊心。
[彼女が昨日言っていたあのことばは、彼のプライドを傷つけた。]

表現例(1)の場合、話し手の移動と共に指示詞“这”/「これ」による指示対象が“教学楼”から“体育馆”、“礼堂”へと変化している。表現例(2)の場合、前半(桌子上的书/机の上の本)がなければ、“这”/「これ」が何を指しているのか不明瞭であり、表現例(3)においては会話の背景となる先行文脈、即ち“她昨天说的话”/「彼女が昨日言っていたことば」がない限り、“那”/「あの」の指示対象は不明である。指示詞による指示対象は文脈に伴って変化するものであり、文脈と密接に関わっていると言える。

現代中国語の指示詞“这/那”に関する諸問題(とりわけ指示・代替・照応用法)に関しては、従来多くの研究者によって論考されてきた。しかし、これまでの研究において、単文または複文レベルで“这/那”の統語機能について言及するものは多く見られるものの、コンテクストのレベルにおいて、“这/那”に言及したものは決して多いとは言いが

たい。例えば、吕叔湘1980では指示詞の個別的用法については詳細に記述されているものの、“这/那”の使い分けについては言及されていない。また、同一の文脈における“这/那”の使い分けについてもまだ明らかにされておらず問題が残されている。

本研究ではまず、指示詞の用法をまとめ、副詞としての“这/那”類の用法に基づき、指示詞におけるモダリティ的な用法を新たに提示する。そして、指示・代替の基本用法を超えた指示詞“那”を中心に指示詞における虚化現象について考察していく。さらに文脈指示における“这/那”及びコ・ソ・アの使用状況を考察し、指示詞と「視点移動」の関係を明らかにする。最後に、文脈指示に現れている指示詞“这/那”及びコ・ソ・アの特徴が指示詞を含む修飾構造においてどのように反映されているのかについて考察を進め、その分析結果をもとに同格関係と領属関係における“这/那”の役割についての仮説を提示し、その妥当性を検証する。

2. 本研究の構成

具体的には、本論では以下のように議論を進める。

第1章　先行研究及びその問題点

第1章では、指示詞に関連する用語を定義し、指示とテクストとの関係により下位分類を行った上で、指示詞に関する先行研究の理論と枠組みの展開に注目しながら考察を進める。指示詞に現れる非対称性、虚化現象、談話機能を概観した上で、先行研究における問題点を指摘する。

第2章　“这/那”の用法

第2章ではまず、指示詞の用法をまとめ、それぞれの統語的特徴を考察する。

次に副詞として用いられている“这/那”類の用法をまとめ、従来あまり言及されてこなかったモダリティ的な用法を提示する。形容詞の前に置かれた指示詞は、その程度を表す一方で、話し手の事柄に対する態度・感情などを表すこともできる。こういったモダリティ的な用法は場所性指示詞(例:“这儿、那儿”)にも見られる。その場所性指示詞の有無がもたらす表現効果の違いを考察し、そのモダリティ的な用法を検証する。

第3章　指示詞“那”の虚化現象

第3章では、指示詞“那”を中心に指示詞の虚化現象について考察する。

虚詞は、一般的に具体的な意味を持つ語の変形である。具体的な語彙的意味を失い、文法的な働きをするようになるという過程が、実詞の「虚化」である①。呂叔湘1984bは最も早く指示詞の虚化現象を論考した研究者の一人である。

---

① 「文法化」(grammaticalization)とは文法範疇及び文法成分の出現とその形成(例えば、主語・目的語という文法範疇、または主格・目的格のマーカーという文法成分がどのように形成されているのか)を指す。また、「虚化」(semantic weakening)とは語彙的意味の変化、いわゆる実質的な意味から形式的な意味への変化を指す。孙朝奋1994:26は次のような表現例を挙げ、“be going to”における虚化の過程を説明している(【　】内の説明は引用者による)。

a. Henry is going to town.　【移動】
［ヘンリーは町に向かっているところだ。］

b. The rain is going to come.　【未来時制】
［雨が降るだろう。］

“be going to”は具体的な空間的移動を表すもの(表現例 a)から虚化して、未来時制を表すもの(表現例 b)となっている。中国語の指示詞においては、主に語彙的な意味の変化が見られるため、本研究では「虚化」という用語を用いる。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com